

5 月号

ひだまり

わかくさこども園



2023.4.28



園庭にあるサルスベリの木。
一人で登りたいけど、最初の枝に足が届かない。

どうやって登ろうか？

なわとびが使えるかもしれない。
持ち手を上に投げると、枝に絡まってくれた。

なわとびを引っ張って登ろうとするけれど、
手が滑ってうまくいかない。

どうやって登ろうか？

(2023.4.20)

次は友だちを呼んできて、一緒に考えてみる。

どうやって登ろうか？

友だちのと、自分のなわとびを結んで、長くしよう。
それを、反対側の枝にも結んで、足をかけて、と。
それでも、ぐらぐしてうまく登れない。

今日はできなかったけど、また今度、やってみよう。



5月の予定

【幼稚園午前保育】

2日（火）

1日（月）創立記念日 ※幼稚園休園

11日（木）避難訓練

16日（火）親子ピクニック（ももはな・ふじ）

17日（水）親子ふれあいday（こむぎ・ゆずは）

24日（水）バス遠足（みそら）※幼稚園休園

なんでもない日の、子どもたちのこと

わかくさの今とこれから。子どもたちのことを思いつくまに。

園長 習田 和正



新年度が始まりました

春らしい日が増えてきました。よく晴れた日は、もう日差しが暑いくらい。園庭の新しい木々も葉っぱを青々とたたえ始めていて、ちょっとずつ虫や鳥たちが遊びに来てくれるようになりました。

子どもたちはそんな春を歓迎していて、園庭に出始めたアリを捕まえて飼ったり、木の新芽を摘んでブーケを作ったり、お花を水に浸けた色水を作ったりして外遊びを楽しんでいます。

そして、初めは緊張していたけれど、新しい環境に慣れてきて、笑顔を見せてくれるようになってきた新入園の子どもたち。進級組の子どもたちが少し自慢げに遊びをリードし、一緒になって楽しんでいるほほえましい姿もあります。



各クラスの4月の様子は、巻末ページ「ふおとこーなー」でもご紹介していますので、どうぞご覧ください。

いよいよ大型連休に入りますね。4月の疲れをしっかりとって、楽しい連休にしましょう。

芽出しから収穫まで

「我孫子といえば手賀沼」と言うのは安直すぎるかもしれませんが、この我孫子の地に引っ越してきて私が最初に感じたのは、その自然の豊かさでした。もちろん手賀沼もそうですが、それ以上に、その周囲に広がる迫力ある田園風景に驚かされたのを覚えています。

私が小さかった頃は田畑にあまり縁がなかったこともあって、お米といっても「毎日食べるもの」くらいの興味しかなかった気がします。では、この我孫子に住むわかくさの子どもたちは・・・？

新学期が始まり、ためしに何冊か、お米関連の本をみそらの保育室に置いてみることにしました。すると、早速反応が。田植えや稲穂の写真を見ながら、「これ知ってる！見たことある！」と教えてくれる子が何人もいて、お兄ちゃんやお姉ちゃんが小学校で育てていることを知っている子もいました。「わたしも作ってみたい!」。その声が大きくまでに、時間はかかりませんでした。クラスでの話し合いの結果、みそらで米作りをすることになりました。





土の量を調節しながら苗床を作る



ペットボトルの中で発芽したたねもみ



近くで遊んでいた年少さんも興味津々

そうなるを探さなければならないのが、お米のことをよく知っている人。せっかくやるなら、その道のプロに教えてもらいたいと思い、園からすぐの農家さん「中野ファーム」の中野裕さんに子どもたちの先生をお願いすることになりました。

(実はわかくさの卒園児のお父さんでもあります。快く引き受けてくださいました)

そして、中野さんとの初顔合わせの日。本で調べたり、みんなで話したりして、お米についての想像をふくらませていた子どもたちからは、たくさんの質問が出ました。

「たねもみから芽がでるのはどうして？」
「なんでお米にはえいようがあるの？」
「お米の先からでているツノはなあに？」

その一つひとつに、丁寧に答えてくれる中野さん。「みんながご飯を食べて大きくなるように、お米も、たねもみの中の栄養を食べて芽を出すんだよ」。中野さんの話に、子どもたちも興味津々でした。



質問タイムのあとは、いよいよたねもみの芽出しの準備です。初めて見るたねもみを、さわってみたり、においをかいでみたり。自分で持って来たペットボトルに一粒一粒確かめながら入れ、水をたっぷり注ぐと準備完了です。



その週明け、子どもたちが登園してみるとびっくり。ペットボトルの中のたねもみからは、もう芽が出始めていました。その日のうちに中野さんが来てくれ、次は苗床づくりです。カップに土とたねもみを入れ、しっかりと発芽させます。連休明けには、いよいよ田植えができるそうです。(今回は一人一つのバケツを使って米作りをします)

たねもみの芽出しから秋の収穫まで、一人ひとりが責任を持って育てていきます。一粒のたねもみから何十粒のお米ができる不思議さ、逆に、なかなか思い通りには育ってくれない難しさ。米作りと向き合うことで見えてくる色んなをいのちの形を、子どもたちと一緒にたくさん発見しながら、この一年を過ごしていきたいと思っています。

わかかさこども園

wakakusa kodomoen